

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3771600610
法人名	医療法人 圭良会
事業所名	グループホーム こんぴら
所在地	香川県仲多度郡琴平町167番地
自己評価作成日	令和 3 年 11 月 27 日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3771600610-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 3 年 12 月 1 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人内での勉強会や研修を通して、職員のスキルアップに努めている。併設している森内科にて、週1回入居者全員が定期受診し、医師・看護師に状態を報告し健康管理を行っている。コロナ禍により、外出する機会が少なくなっているが、入居者が楽しく持てるようにレクリエーションや行事等を工夫している。ユニット間の交換研修や合同カンファレンスを実施し、職員がどのユニットでも業務が行えるように取り組んでいる。実習の受け入れが難しい中で、オンラインを活用したりリモート実習を行い、業務内容や取り組み・認知症についての説明を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理事長の堅実な思いは、やっとな職員まで浸透し出し、施設の福祉の質と母体が医療機関なので医療とがフィットして深い絆を作っていた。管理者同士が同じ施設の目標を2階ユニットと3階ユニットとの垣根を飛び越えて、阿吽の呼吸で実践している。そして、年間を目標を定め、各職員毎の目標と比較しながら利用者心に心を授けている。会議やカンファレンスの回数も多く、私的なことも話ができて、普段は嫌がる会議やカンファレンスに対しても、この施設では当たり前話が出来、向上への礎となっていた。特に、安全面を重要視し、ここまでなくてもいい避難訓練も毎月実施して、身体に染み込ませようとしているのも珍しい。経験を積んだ歴史あるこの施設が、管理者とともに人と人と触れ合い、このコロナ禍から新たに理事長の夢に向けて、変化しようとしていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	有限会社アウルメディカルサービス	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に理念を掲示し、各自名札の裏にも理念が書かれた紙を入れており、申し送りやミーティング時に唱和している。毎年事業所目標を設定し、理念の実践に繋がるように取り組んでいる。	各ユニットの玄関に掲示して、職員の目に触れられるようにしている。ミーティングの時にも唱和し職員に浸透している。職員の個人目標も半年に1回作成し、振り返りを行い、職員のやる気向上を図っている。長年の歴史を守りつつ、確実に実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により、外出制限があるため地域の方との関わりが難しい状況になっている。	歴史があるだけに、たまに近所を散歩をしても、近隣の住民と挨拶を交わせる関係ができています。キャラバンメイトにて認知症サポーター養成講座の講師は毎年実施して、小学校への訪問をしている。美容師の訪問があり、利用者は楽しみの一つとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターの職員と協働し、認知症サポーター養成講座の講師として参加し、地域の方に認知症の人との関わり方の講演を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催している。コロナ禍のため、参加者は役場職員・地域包括支援センター職員のみとなっている。事業所の取り組みの報告・それに対する意見を話し合い、内容を会議録に残しサービスの向上に努めている。	現在も2か月に1回開催していて、役場職員が包括の方のどちらかが必ず訪問している。直近の議題は、利用者の状況、コロナ対策や避難訓練の内容について話し合った。例として「まな板は野菜、肉を分けているか？」や「麦茶は24時間で交換しているか？」	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域運営推進会議に参加して頂いている。会議の中で入居者数や予約者の報告、事業所の取り組みを報告しており、協力関係を取り組んでいる。	市町村役場との連携は、ユニット管理者が中心となっている。以前はよく出向き、入居者の相談、事務連絡や役場からも受け入れられるかの相談されたこともある。もう一人の管理者はまだ行ったことがないので、「是非、行ってみたい」とやる気に満ち溢れていた。	窓口は固定ではなく、市町村との関係が誰でも関わられるような、広い連携にしてみたいかがでしょうか？
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年身体拘束について勉強会を実施している。法人内の委員会にも参加し、身体拘束をしないケアに努めている。どうしても必要な方については週1回カンファレンスを実施し、継続の必要性を検討している。玄関は防犯のため施錠している。	委員会は法人が開催している会議にて毎月実施している。利用者の状況報告をし、勉強会は年1回開催している。ユニットの玄関は、安全面を考慮して1日施錠している。例として「たてらんとって」「そこでおって」などの発言は、スピーチロックとして、言わないように注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年虐待について勉強会を実施しており、全職員が統一した認識が持てるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年権利擁護について勉強会を実施している。必要時は関係者と連携を取りながら支援できるように努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については管理者が実施し、本人・家族から質問がないか確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会やサービス担当者会議時に要望等を尋ねている。必要に応じて運営に反映させている。	ケアプランの作成時に家族に電話をして、その際に意見を聴いている。「面会をしたい」という要望を聞いて、ガラス越しの面会を実施してみたら、県外の家族の方も面会時に喜んでくれる姿が見受けられた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週理事長への報告会を実施している。その際に職員からの提案や要望等伝えることができている。職員と管理者は一緒に仕事をしており、カンファレンス時等で改善点や要望等聞くことができている。	理事長は週1回話す機会があり、意見交換ができています。カンファレンスを毎日、2階と3階のユニットを交えての話し合いを週1回している。入居者の状況確認や伝達の軽減を目指し、無駄のない業務を実践している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シートを活用し、各自目標を設定し達成できるように取り組んでいる。半年に1回進捗報告を行うことで、何に取り組んでどのような成果があったか等確認することができている。職員のやりがいや職場環境の改善に繋げることができている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内で毎月テーマを決めて勉強会を実施している。法人内の勉強会や事業所間での交換研修も行っており、ケアに対する知識や理解を深めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍により、リモートでの研修が主のため同業者との交流は図れていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者・介護支援専門員が本人と面談を行い、不安なことや要望等を聞き関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談・入居前面談時に家族から、不安なことや要望等を聞きケア内容に反映している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談に来られた際に本人・家族が必要としている支援を把握し、施設のサービス内容を説明するとともに、他に利用可能なサービスについても説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができることは行ってもらい、家事活動(料理・洗濯・裁縫等)も一緒に行い、職員が知らないことを教えてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の意見を取り入れてケアを行っている。コロナ禍により、家族との外出は行っていないが、受診の際には電話で状況を伝え、面会時には普段の様子を写真で見てもらったりガラス越しの面会を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により、外出は行っていないが、馴染みの関係が途切れないよう電話でのやり取りを行えている。	月1回、2階と3階のユニット交流会があり、おかし作りやサッカーポーリングを開催し、施設内で馴染みの場や関係が深まっている。3か月に1回来る美容師さんが馴染みの人となり、家族に電話をして馴染みの関係をお伝えすると喜んで頂き、利用者も嬉しそうなお顔が絶え間なく窺えた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性を把握し、席の位置等を配慮している。孤立しないよう職員が間に入り、支え合えるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	体調不良等で入院された際は、お見舞いに行っている。亡くなられた時は、コロナ禍により葬儀への参列は控えているが、電話にて連絡させて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン立案時に生活に対する意向を確認している。意思表示が難しい方に対しては、普段の様子や表情等から思いをくみ取れるように意識し、職員で検討している。	生まれた時、結婚した時、1日の生活リズム、好きなことや好きな話題、嫌いなことを家族の方に記入して頂き、生活歴史シートに記入している。またそれを活用して、入居前の利用者の状況を把握して、その時の表情や仕草で、思いや意向を把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族から情報収集して、生活歴シートを作成している。本人との会話の中でも馴染みの暮らし方等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月モニタリングを行い、状態の把握に努めている。毎日カンファレンスも行い、状態の変化や気になることを話し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン更新時に、ケースカンファレンスにて職員で話し合い、サービス担当者会議で本人・家族の意向も反映したプランを作成している。	入居前、1ヶ月を目途に作成し、介護保険に合わせて[6ヶ月]ごとに作成。何かあればその都度、変更している。週1回理事長が診察をし、相談の上、医療ケアもプランに入れて介護計画に反映させている。近況の報告も必ずしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や注意事項、検討事項等をケア記録に残し、毎日のカンファレンスでも話し合い、申し送りをして職員間で情報を共有しケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々なニーズに対応できるように検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により外出する機会が少ないが、美容院からの訪問美容で散髪を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関である森内科にて、毎週受診している。歯科・眼科等は協力医療機関の他、家族の希望に沿って支援している。	入居後、かかりつけ医は全員協力医に転医される。歯科医は月1回、口腔ケア指導〔書面〕がある。病院とは24時間365日体制で見守り、安心を生んでいる。他科への受診は職員が連れていくようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	森内科看護師へ入居者の状態を報告し、必要時には森内科・協力医療機関である永生病院を受診している。永生病院看護師の訪問もあり、連携がとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	永生病院へ入院した際、病院職員との情報交換を行っている。入院中も職員が本人の様子を見に行き、その都度情報の共有ができています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、医師から家族へ説明し方針を共有している。入居者の状態を医師・看護師に報告しながら支援に取り組んでいる。	看取りは最近はない。何かあれば、法人内の病院に入院されることが多い。入居時に、重度化したときの指針に基づき、詳細に説明している。重度化した場合は主治医から家族に説明し、対応の方針を決定・共有している。また、デスカンファレンスは病院の方で行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を行い、応急手当やどのように報告・連絡等するのか訓練し取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	計画的に避難訓練を実施し、入居者も一緒に参加している。マニュアルに沿って、全職員行動できるように取り組んでいる。	昼夜想定で年3回実施している。様々な火災を想定して、各ユニットごとで役割分担をしている。毎月、ユニット毎で訓練を開催しているため、いつでも対応できるようにしている。事務所に、避難経路と連絡網を貼ってある。備蓄は1週間分。賞味期限の近い物は、推進会議にて活用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の勉強会を行い、入居者一人ひとりに合った対応をし人格を尊重している。	呼称は苗字に「さん」付け。希望の呼び名がある場合は、家族の相談の元、呼び名を変えることもある。居室に入るときは、声かけとノックを必ずするようにしている。月1回、倫理委員会や個人情報保護委員会も開催している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴や外出・家族との電話等、本人の希望を確認し、できるだけ希望に沿えるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	受診等の予定が決まっている場合はあるが、本人のペースに合わせて入浴の時間や活動への参加等、希望に沿えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類を一緒に選んだり、行事の時には化粧をする等、楽しみが持てるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には赤飯やちらし寿司等、季節に合わせたメニューを提供している。職員と一緒に、おやつ作りや食事の盛り付け・食器拭き等も行っている。	朝ご飯は施設、昼・夜はケイタリング。旬のものは、おやつで提供している。誕生日にはケーキを提供している(チョコレート振ってみたり、ホイップ乗せてみたり)。コロナ以前は、盛り付けや下膳、配膳、洗い物など、利用者ができることを手伝って頂く。行事の際にお弁当を作ったこともある。	実際の食べ方や雰囲気業者や管理栄養士の方にも確認して、新たな献立に導いていってもらってはいかがでしょうか？
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師・栄養士と連携し、一人ひとりの状態に応じた食事量・食事形態で提供している。必要に応じて、食事・水分量をチェックし1日の摂取量を把握している。おやつ時には本人の好むコーヒー等を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに応じた方法で口腔ケアを行い清潔保持に努めている。毎月、協力医療機関である小野歯科から口腔ケアに関する助言・指導を受け実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄パターンを把握し、一人ひとりに応じたパット・おむつ等の使用や適宜トイレ誘導を行い、排泄の失敗を減らすように努めている。	各ユニットにトイレが4か所ある。失敗した場合は、さりげなく部屋につれて行き、自尊心を傷つけないように配慮している。入居時はチェックシートを活用している。細かい言葉掛け、トイレ誘導にて、オムツからリハパンに変わった人が多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促し、体操等の活動に参加してもらうよう取り組んでいる。排便の状況に応じて、下剤・坐薬を使用し調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望を確認し、タイミングに合わせて入浴できるよう支援している。受診等で希望に沿えない場合もあるが、その時には説明し納得して頂いている。一般浴では難しい方は、機械浴にて入浴している。	入浴は週3回。2階は機械浴で、3階の利用者も入浴が困難な方が機械浴を使うこともある。入浴を嫌がる人には、「明日診察やけん、入った方がええよ」と言葉かけをして、誘導している。お湯はすべて入れ替えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態に応じて、居室や和室での休息の時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりのお薬手帳・薬内容表にて、目的や副作用・用量について把握している。マニュアルに沿って、職員同士で確認し服薬介助を行っている。症状に変化があれば、医師・看護師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干しや食器拭き等の家事活動、カルタやパズル等のレクリエーション、屋上での散歩等により気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により、外食や散歩等の外出する機会は少ないが、密にならない場所へのドライブや屋上での散歩等の支援を行っている。	屋上から金毘羅山を見て拝んだり、街を一望して、昔話に花を咲かせている。近所の商店街への散歩を中心としていて商店街の方と挨拶やおしゃべりをして楽しんでいる。外出に変わる取り組みは、利用者さんで元フラダンスの先生がいたので、フラダンスの会を開催し、盛り上がった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には職員で管理しているが、本人の希望により、少額のお金や通帳を所持されている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人と電話したり、年賀状等を書いてやり取りしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は落ち着いて過ごせるように、温度管理や明るさ等の環境整備に配慮している。玄関に花を飾ったり、行事に参加した時の入居者の写真や季節に合わせた作品等を掲示している。	リビングでは、会話を楽しんでいる利用者が多くいた。広々とした廊下は、イベントでの写真や直筆で書かれた今年の目標、利用者が作成した作品が飾られていた。100歳になった表彰を理事長と笑顔で写っている写真が印象的だった。畳の部屋があり、洗濯物を置くこともある。人生の経験が活かせるリビングとなっていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や和室で入居者同士で楽しく過ごしたり、居室でゆっくり休まれたりと、思い思いに過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたダンスや机等の家具・寝具等を持って来てもらい、自宅にいるように過ごせるように工夫している。	ベット、洗面台が備え付けられ、ソファでゆっくり過ごし、知人に頂いた大きな書道の作品が5枚ほど飾られ見守られている。生きるという人生の目標を大きく書として掲げている部屋もあり、人生の終活を楽しんでいる。部屋で新聞や本を読んでゆったりと過ごせていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食堂を中心に居室が左右に分かれており、各居室の近くにトイレが配置されている。ユニット内は基本バリアフリーになっており、安全に過ごせるよう工夫されている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3771600610
法人名	医療法人 圭良会
事業所名	グループホーム こんぴら
所在地	香川県仲多度郡琴平町167番地
自己評価作成日	令和 3 年 11 月 27 日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3771600610-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 3 年 12 月 1 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人内での勉強会や研修を通して、職員のスキルアップに努めている。併設している森内科にて、週1回入居者全員が定期受診し、医師・看護師に状態を報告し健康管理を行っている。コロナ禍により、外出する機会が少なくなっているが、入居者が楽しく持てるようにレクリエーションや行事等を工夫している。ユニット間の交換研修や合同カンファレンスを実施し、職員がどのユニットでも業務が行えるように取り組んでいる。実習の受け入れが難しい中で、オンラインを活用したりリモート実習を行い、業務内容や取り組み・認知症についての説明を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理事長の堅実な思いは、やっとな職員まで浸透し出し、施設の福祉の質と母体が医療機関なので医療とがフィットして深い絆を作っていた。管理者同士が同じ施設の目標を2階ユニットと3階ユニットとの垣根を飛び越えて、阿吽の呼吸で実践している。そして、年間を目標を定め、各職員毎の目標と比較しながら利用者心に心を授けている。会議やカンファレンスの回数も多く、私的なことも話ができて、普段は嫌がる会議やカンファレンスに対しても、この施設では当たり前に話が出来、向上への礎となっていた。特に、安全面を重要視し、ここまでしなくてもいい避難訓練も毎月実施して、身体に染み込ませようとしているのも珍しい。経験を積んだ歴史あるこの施設が、管理者とともに人と人と触れ合い、このコロナ禍から新たに理事長の夢に向けて、変化しようとしていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	有限会社アウルメディカルサービス	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に理念を掲示し、各自名札の裏にも理念が書かれた紙を入れており、申し送りやミーティング時に唱和している。毎年事業所目標を設定し、理念の実践に繋がるように取り組んでいる。	各ユニットの玄関に掲示して、職員の目に触れられるようにしている。ミーティングの時にも唱和し職員に浸透している。職員の個人目標も半年に1回作成し、振り返りを行い、職員のやる気向上を図っている。長年の歴史を守りつつ、確実に実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により、外出制限があるため地域の方との関わりが難しい状況になっている。	歴史があるだけに、たまに近所を散歩をしても、近隣の住民と挨拶を交わせる関係ができています。キャラバンメイトにて認知症サポーター養成講座の講師は毎年実施して、小学校への訪問をしている。美容師の訪問があり、利用者は楽しみの一つとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターの職員と協働し、認知症サポーター養成講座の講師として参加し、地域の方に認知症の人との関わり方の講演を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催している。コロナ禍のため、参加者は役場職員・地域包括支援センター職員のみとなっている。事業所の取り組みの報告・それに対する意見を話し合い、内容を会議録に残しサービスの向上に努めている。	現在も2か月に1回開催していて、役場職員が包括の方のどちらかが必ず訪問している。直近の議題は、利用者の状況、コロナ対策や避難訓練の内容について話し合った。例として「まな板は野菜、肉を分けているか？」や「麦茶は24時間で交換しているか？」	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域運営推進会議に参加して頂いている。会議の中で入居者数や予約者の報告、事業所の取り組みを報告しており、協力関係を取り組んでいる。	市町村役場との連携は、ユニット管理者が中心となっている。以前はよく出向き、入居者の相談、事務連絡や役場からも受け入れられるかの相談されたこともある。もう一人の管理者はまだ行ったことがないので、「是非、行ってみたい」とやる気に満ち溢れていた。	窓口は固定ではなく、市町村との関係が誰でも関わられるような、広い連携にしてみたいかがでしょうか？
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年身体拘束について勉強会を実施している。法人内の委員会にも参加し、身体拘束をしないケアに努めている。どうしても必要な方については週1回カンファレンスを実施し、継続の必要性を検討している。玄関は防犯のため施錠している。	委員会は法人が開催している会議にて毎月実施している。利用者の状況報告をし、勉強会は年1回開催している。ユニットの玄関は、安全面を考慮して1日施錠している。例として「たてらんとって」「そこでおって」などの発言は、スピーチロックとして、言わないように注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年虐待について勉強会を実施しており、全職員が統一した認識が持てるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年権利擁護について勉強会を実施している。必要時は関係者と連携を取りながら支援できるように努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については管理者が実施し、本人・家族から質問がないか確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会やサービス担当者会議時に要望等を尋ねている。必要に応じて運営に反映させている。	ケアプランの作成時に家族に電話をして、その際に意見を聴いている。「面会をしたい」という要望を聞いて、ガラス越しの面会を実施してみたら、県外の家族の方も面会時に喜んでくれる姿が見受けられた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週理事長への報告会を実施している。その際に職員からの提案や要望等伝えることができている。職員と管理者は一緒に仕事をしており、カンファレンス時等で改善点や要望等聞くことができている。	理事長は週1回話す機会があり、意見交換ができています。カンファレンスを毎日、2階と3階のユニットを交えての話し合いを週1回している。入居者の状況確認や伝達の軽減を目指し、無駄のない業務を実践している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シートを活用し、各自目標を設定し達成できるように取り組んでいる。半年に1回進捗報告を行うことで、何に取り組んでどのような成果があったか等確認することができている。職員のやりがいや職場環境の改善に繋げることができている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内で毎月テーマを決めて勉強会を実施している。法人内の勉強会や事業所間での交換研修も行っており、ケアに対する知識や理解を深めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍により、リモートでの研修が主のため同業者との交流は図れていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者・介護支援専門員が本人と面談を行い、不安なことや要望等を聞き関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談・入居前面談時に家族から、不安なことや要望等を聞きケア内容に反映している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談に来られた際に本人・家族が必要としている支援を把握し、施設のサービス内容を説明するとともに、他に利用可能なサービスについても説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができることは行ってもらい、家事活動(料理・洗濯・裁縫等)も一緒に行い、職員が知らないことを教えてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の意見を取り入れてケアを行っている。コロナ禍により、家族との外出は行っていないが、受診の際には電話で状況を伝え、面会時には普段の様子を写真で見てもらったりガラス越しの面会を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により、外出は行っていないが、馴染みの関係が途切れないよう電話でのやり取りを行えている。	月1回、2階と3階のユニット交流会があり、おかし作りやサッカーポーリングを開催し、施設内で馴染みの場や関係が深まっている。3か月に1回来る美容師さんが馴染みの人となり、家族に電話をして馴染みの関係をお伝えすると喜んで頂き、利用者も嬉しそうに顔が絶え間なく窺えた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性を把握し、席の位置等を配慮している。孤立しないよう職員が間に入り、支え合えるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	体調不良等で入院された際は、お見舞いに行っている。亡くなられた時は、コロナ禍により葬儀への参列は控えているが、電話にて連絡させて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン立案時に生活に対する意向を確認している。意思表示が難しい方に対しては、普段の様子や表情等から思いをくみ取れるように意識し、職員で検討している。	生まれた時、結婚した時、1日の生活リズム、好きなことや好きな話題、嫌いなことを家族の方に記入して頂き、生活歴史シートに記入している。またそれを活用して、入居前の利用者の状況を把握して、その時の表情や仕草で、思いや意向を把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族から情報収集して、生活歴シートを作成している。本人との会話の中でも馴染みの暮らし方等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月モニタリングを行い、状態の把握に努めている。毎日カンファレンスも行い、状態の変化や気になることを話し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン更新時に、ケースカンファレンスにて職員で話し合い、サービス担当者会議で本人・家族の意向も反映したプランを作成している。	入居前、1ヶ月を目途に作成し、介護保険に合わせて[6ヶ月]ごとに作成。何かあればその都度、変更している。週1回理事長が診察をし、相談の上、医療ケアもプランに入れて介護計画に反映させている。近況の報告も必ずしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や注意事項、検討事項等をケア記録に残し、毎日のカンファレンスでも話し合い、申し送りをして職員間で情報を共有しケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々なニーズに対応できるように検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により外出する機会が少ないが、美容院からの訪問美容で散髪を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関である森内科にて、毎週受診している。歯科・眼科等は協力医療機関の他、家族の希望に沿って支援している。	入居後、かかりつけ医は全員協力医に転医される。歯科医は月1回、口腔ケア指導〔書面〕がある。病院とは24時間365日体制で見守り、安心を生んでいる。他科への受診は職員が連れていくようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	森内科看護師へ入居者の状態を報告し、必要時には森内科・協力医療機関である永生病院を受診している。永生病院看護師の訪問もあり、連携がとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	永生病院へ入院した際、病院職員との情報交換を行っている。入院中も職員が本人の様子を見に行き、その都度情報の共有ができています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、医師から家族へ説明し方針を共有している。入居者の状態を医師・看護師に報告しながら支援に取り組んでいる。	看取りは最近はない。何かあれば、法人内の病院に入院されることが多い。入居時に、重度化したときの指針に基づき、詳細に説明している。重度化した場合は主治医から家族に説明し、対応の方針を決定・共有している。また、デスカンファレンスは病院の方で行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を行い、応急手当やどのように報告・連絡等するのか訓練し取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	計画的に避難訓練を実施し、入居者も一緒に参加している。マニュアルに沿って、全職員行動できるように取り組んでいる。	昼夜想定で年3回実施している。様々な火災を想定して、各ユニットごとで役割分担をしている。毎月、ユニット毎で訓練を開催しているので、いつでも対応できるようにしている。事務所に、避難経路と連絡網を貼ってある。備蓄は1週間分。賞味期限の近い物は、推進会議にて活用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の勉強会を行い、入居者一人ひとりに合った対応をし人格を尊重している。	呼称は苗字に「さん」付け。希望の呼び名がある場合は、家族の相談の元、呼び名を変えることもある。居室に入るときは、声かけとノックを必ずするようにしている。月1回、倫理委員会や個人情報保護委員会も開催している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴や外出・家族との電話等、本人の希望を確認し、できるだけ希望に沿えるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	受診等の予定が決まっている場合はあるが、本人のペースに合わせて入浴の時間や活動への参加等、希望に沿えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類を一緒に選んだり、行事の時には化粧をする等、楽しみが持てるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には赤飯やちらし寿司等、季節に合わせたメニューを提供している。職員と一緒に、おやつ作りや食事の盛り付け・食器拭き等も行っている。	朝ご飯は施設、昼・夜はケイタリング。旬のものは、おやつで提供している。誕生日にはケーキを提供している(チョコレート振ってみたり、ホイップ乗せてみたり)。コロナ以前は、盛り付けや下膳、配膳、洗い物など、利用者ができることを手伝って頂く。行事の際にお弁当を作ったこともある。	実際の食べ方や雰囲気業者や管理栄養士の方にも確認して、新たな献立に導いていってもらってはいかがでしょうか？
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師・栄養士と連携し、一人ひとりの状態に応じた食事量・食事形態で提供している。必要に応じて、食事・水分量をチェックし1日の摂取量を把握している。おやつ時には本人の好むコーヒー等を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに応じた方法で口腔ケアを行い清潔保持に努めている。毎月、協力医療機関である小野歯科から口腔ケアに関する助言・指導を受け実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄パターンを把握し、一人ひとりに応じたパット・おむつ等の使用や適宜トイレ誘導を行い、排泄の失敗を減らすように努めている。	各ユニットにトイレが4か所ある。失敗した場合は、さりげなく部屋につれて行き、自尊心を傷つけないように配慮している。入居時はチェックシートを活用している。細かい言葉掛け、トイレ誘導にて、オムツからリハパンに変わった人が多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促し、体操等の活動に参加してもらうよう取り組んでいる。排便の状況に応じて、下剤・坐薬を使用し調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望を確認し、タイミングに合わせて入浴できるよう支援している。受診等で希望に沿えない場合もあるが、その時には説明し納得して頂いている。一般浴では難しい方は、機械浴にて入浴している。	入浴は週3回。2階は機械浴で、3階の利用者も入浴が困難な方が機械浴を使うこともある。入浴を嫌がる人には、「明日診察やけん、入った方がええよ」と言葉かけをして、誘導している。お湯はすべて入れ替えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態に応じて、居室や和室での休息の時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりのお薬手帳・薬内容表にて、目的や副作用・用量について把握している。マニュアルに沿って、職員同士で確認し服薬介助を行っている。症状に変化があれば、医師・看護師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干しや食器拭き等の家事活動、カルタやパズル等のレクリエーション、屋上での散歩等により気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により、外食や散歩等の外出する機会は少ないが、密にならない場所へのドライブや屋上での散歩等の支援を行っている。	屋上から金毘羅山を見て拝んだり、街を一望して、昔話に花を咲かせている。近所の商店街への散歩を中心としていて商店街の方と挨拶やおしゃべりをして楽しんでいる。外出に変わる取り組みは、利用者さんで元フラダンスの先生がいたので、フラダンスの会を開催し、盛り上がった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には職員で管理しているが、本人の希望により、少額のお金や通帳を所持されている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人と電話したり、年賀状等を書いてやり取りしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は落ち着いて過ごせるように、温度管理や明るさ等の環境整備に配慮している。玄関に花を飾ったり、行事に参加した時の入居者の写真や季節に合わせた作品等を掲示している。	リビングでは、会話を楽しんでいる利用者が多くいた。広々とした廊下は、イベントでの写真や直筆で書かれた今年の目標、利用者が作成した作品が飾られていた。100歳になった表彰を理事長と笑顔で写っている写真が印象的だった。畳の部屋があり、洗濯物を置くこともある。人生の経験が活かせるリビングとなっていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や和室で入居者同士で楽しく過ごしたり、居室でゆっくり休まれたりと、思い思いに過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたダンスや机等の家具・寝具等を持って来てもらい、自宅にいるように過ごせるように工夫している。	ベット、洗面台が備え付けられ、ソファでゆっくり過ごし、知人に頂いた大きな書道の作品が5枚ほど飾られ見守られている。生きるという人生の目標を大きく書として掲げている部屋もあり、人生の終活を楽しんでいる。部屋で新聞や本を読んでゆったりと過ごしていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食堂を中心に居室が左右に分かれており、各居室の近くにトイレが配置されている。ユニット内は基本バリアフリーになっており、安全に過ごせるよう工夫されている。		